

一般社団法人日本感染症学会提言
今冬のインフルエンザと COVID-19 に備えて (概要)

1. 診療について

臨床症状による診断ではなく、できる限り検査キットを行って診断する。

- ・ 臨床症状のみでインフルエンザと新型コロナウイルスを鑑別することは難しく、冬季に発熱患者や呼吸器症状を呈する患者を診る場合は、インフルエンザと COVID-19 の両方の可能性を考える必要がある。
- ・ 今冬においても、インフルエンザは早期診断に基づく、早期治療を行う事を推奨する。
- ・ 迅速診断キットを用いず発熱等の症状から「インフルエンザ」と診断すると、問題が生じる可能性があり、できる限り迅速診断キットを用いた確定診断が大切である。

2. 検査について

原則として、COVID-19 の流行が見られる場合には、可及的に両方の検査を行う事を推奨する (流行状況により、先にインフルエンザの検査を行い、陽性であればインフルエンザの治療を行って経過を見ることも考えられる)。

- ・ 新型コロナウイルス感染症迅速抗原検査キットの供給量は少なく、医療圏内の流行状況・濃厚接触の有無・14日以内の流行地域への移動歴を考慮して、使用適応を判断する必要がある。
- ・ 小児では、地域の流行状況に応じて、先にインフルエンザの検査を行って抗インフルエンザ薬を投与し、2日程度経過しても患児の経過が思わしくなかった場合には、その時点で新型コロナウイルス感染症迅速検査キットを行う場合もある。
- ・ 鼻咽頭拭い液の採取時には、必ずしも N95 マスクではなく、サージカルマスク着用でも可能である。患者には、サージカルマスクの着用を推奨する。
- ・ 診察室で検体採取した場合は、次の患者が入室する前に十分な換気を行う事が必要である。

3. ワクチンについて

医療関係者、小児、高齢者、ハイリスク群の患者を含め、インフルエンザワクチンの接種が強く推奨される。